笠原中学校区　施設分離型小中一貫教育に関する研究

笠原中学校　笠原小学校　寿小学校

めざす児童生徒像　　**他者と協働しながら主体的に学び，目的をもって行動する児童生徒**

研究主題　　**他者と協働しながら主体的に学び，目的をもって行動する児童生徒の育成**

１　主題設定の理由

近年，社会の変化は加速度を増し，複雑で予測困難となってきている。このような時代を生き抜く子供たちは，直面する様々な変化を柔軟に受け止め，主体的に学び続け，多様な他者と協働しながら，よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていかなければならない。

このような「生きる力」の育成のためには，同じ地域で過ごす児童生徒の小中学校９年間の学びと育ちを見通し，地域のよさや目指す児童生徒の姿を小中の教員・保護者・地域が共有しながら，つながりをもって見守っていくことが必要である。

笠原中学校区は，笠原小学校（７４６名）と寿小学校（６９５名）の児童のほとんどが笠原中学校（５９８名）に進学する２小１中の学区である。５年前から「小中合同夏季研修会」を開催し，生徒指導や教科の研修，児童生徒情報交換を行うなど，小中連携を行い，小中一貫教育の基盤を作ってきた。しかし，年間１～２回の研修であり，児童生徒の実態や課題をじっくりと話し合い９年間の学びや育ちを見通して実践してきたかというと疑問がある。笠原中学校区の課題は，自己肯定感の向上と学力の向上である。あたたかい人間関係を基盤として，主体的に学び，確かな学力をつけ，自信をもって生き抜く児童生徒の育成が保護者や地域の願いであり，笠原中学校区の教育に求められている。小・中学校それぞれが，地域の特性を生かし育んできた学校風土を基に，学びが分断されることなく，児童生徒を育成していく小中一貫教育の必要性を感じている。

今年度から，水戸市教育委員会研究指定校として，水戸市小中一貫教育「まごころプラン」に基づき，施設分離型小中一貫教育を進めていく。そこで，笠原中学校区の全職員が，顔の見える関係をつくり，児童生徒を９年間の見通しをもって育てていく意識をもち，目指す児童生徒の姿を共有することを大切にしていく。その上で，児童生徒，保護者，地域，教職員が互いにつながり，計画的・系統的に小中一貫教育を実践していけば，他者と協働しながら主体的に学び，目的をもって行動する児童生徒が育成できるのではないかと考え，本主題を設定した。

２　研究のねらい

他者と協働しながら主体的に学び，目的をもって行動する児童生徒を育成するための小中一貫教育の具体的な方策を計画・実践・検討する。具体的な目標は次の４つである。

(1)　小中合同で授業改善や出前授業等を行い，児童生徒の主体的な学びを支え，学力の向上を図る。（学習プロジェクト）

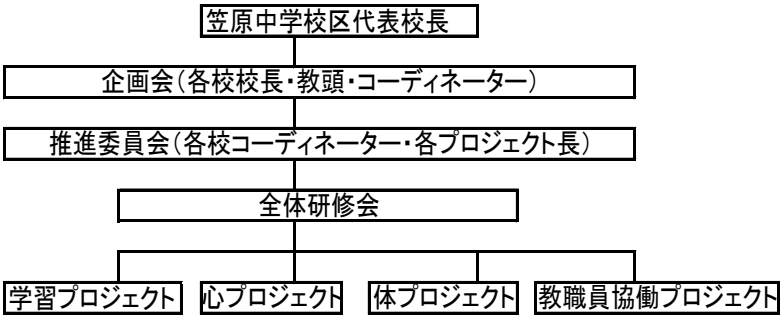
(2)　児童生徒の手による小中協働の活動を通して，小中のリーダーを育成するとともに，規範意識や自己肯定感を育み，温かい人間関係づくりのできる児童生徒を育てる。　（心プロジェクト）

(3)　小小・小中の交流を通して，体力の向上を目指し，目標をもってあきらめずに努力する児童生徒を育てる。（体プロジェクト）

(4)　教職員の顔の見える関係をつくり，合同研修や相互授業参観，情報発信・共有を行い，９年間を見通して児童生徒の育成を図っていく。　（教職員協働プロジェクト）

３　具体的な取組内容

(1)　組織づくり



(2)　各プロジェクトの取組

①　学習プロジェクト

ア　板書・掲示物・家庭学習計画表等の統一

３校で板書の課題は青枠，まとめは赤枠と揃えたり，家庭学習カードの形式を発達段階ごとに合わせたりした。家庭学習時間の目標が小６で９０分だったのに対し，中１で６０分であったため，中学校は１～３年共通で１２０分とした。中学校では家庭学習時間数が増加した。

イ　「理科の授業展開プラン」の統一実施

全小理授業発表校として研究を深めている笠原小学校の「理科授業展開プラン」を共有し，小中で統一実施をすることとした。

ウ　学力向上のためのテスト分析

今年度は中学校に３校教科主任が集まり，２回実施した。授業改善に生かすことができた。

エ　授業

(ｱ)　教員の交流　美術出前授業　笠原小学校で授業

笠原中学校の美術教諭による，「淡彩」での風景画の採色の指導を，笠原小学校５年生対象に実施した。絵の具の色をそのまま使わないことや「色水」を作るイメージで水の割合を多くして彩色することなどを指導したことにより，児童は今まで以上に彩色への興味関心を高め，納得のいく作品を仕上げた。

【美術出前授業】

(ｲ)　生徒の交流　中学校 ESS 部の笠原小学校への訪問（５年生）

笠原中学校の ESS 部の生徒による小学校への訪問では，英語での自己紹介の模範演技やブックトーク（「はらぺこあおむし」のリーディング），バースデーカードの交換（中学生が補助）などを実施した。先輩中学生のアドバイスなどから，英会話を通して楽しく触れ合うことができた。

【ESS 部小学校訪問】

② 心プロジェクト

ア 規範意識の向上

(ｱ) 小中で授業前後のあいさつを揃える

授業と休み時間の切り替えを全員がしっかりと意識できるようにするため，号令とともにあいさつをし，あいさつ後に礼をするように揃えた。それを教師が確認してから，教師もあいさつを行うようにすることで，互いの様子が分かるようにした。活動を通して，全員の気持ちの切り替えがスムーズにできるようになり，授業に対する意欲向上を図ることができた。

(ｲ) ６年生の新入生保護者説明会でのメディア教育講演会

メディア教育講演会を行うことで，新入生のＳＮＳ等を通じたトラブルを未然に防ぐことができるように呼びかけた。保護者向けの話では，警察の方からより具体的な話があり，保護者の防犯についての意識高揚を図ることができた。

【メディア教育講演会】

イ リーダーの育成と小中合同の黙働（リーダー研修会・リーダー会議 「明るい街づくり発表のつどい」での成果発表）

リーダー研修会では，小中学校それぞれの代表の児 童生徒が集まり，笠原中学校区をよりよい街にするための話合いを行った。すぐに実行できる案として，黙働清掃が挙げられ，各校で工夫を凝らした取り組みが行われた。互いの状況について情報交換し，よりよい活動にするために話し合うことができた。取組の成果と課題は「明るい街づくり発表の集い」で発表し，地域の方々にも内容を知ってもらうよい機会となった。

【リーダー研修会①】

【リーダー研修会②】

【明るい街づくり発表の集い】

ウ 小中合同あいさつ運動

小中学生が互いの学校へ出向き，合同のあいさつ運動を行った。子供たちにとってよい手本となった。また，小学生の元気なあいさつに，中学生も元気よくあいさつを返し，温かい雰囲気で取り組むことができた。

【小中合同あいさつ運動】

③ 体プロジェクト

ア 体力向上プロジェクト（サーキットトレーニング）

３校の体育主任を中心にサーキットトレーニングのメニューを立案し，各校で共通のトレーニングで体力の向上を図った。

イ 中学生による小学生陸上指導

小学生にも分かるよう丁寧に説明や模範を示す中学生の姿が見られた。また，身近な中学生が

指導をすることで児童のモチベーションも高まり，その後の練習では，主体的に練習に取り組む児童の姿が見られた。

ウ　６年生の中学校部活動体験

児童が希望する部活動を２つ選択して，部活動体験を行った。各部の中学生が優しく声かけをしてくれたこともあり，小学生も安心して活動をすることができた。短い時間であったが集中して取り組み，充実した体験になった。

エ　小小連携による校内持久走大会の記録情報交換

校内持久走大会では，小学校間で低学年・中学年・高学年ブロックの距離やルールの確認を行い，共通の条件で記録会を実施した。学校間で記録の交換をしたことにより，各学年や個人の持久力の比較と，児童一人一人の体力向上に向けた意欲付けに結び付けることができ，一定の効果が得られた。

④　教職員協働プロジェクト

ア　小中相互授業参観

各校の計画訪問や要請訪問等で相互授業参観を実施し，他校の授業を見合うことで，今後の小中一貫を通しての授業への工夫・改善を図る機会となった。

イ　３校合同研修会

８月に笠原小学校区の３校の全職員が集まり，「学力アップ」「あたたかい人間関係づくり」「体力アップ」「指導力アップ」の４つの分科会に分かれて話合いを行った。

ウ　ホームページによる情報発信

各学校のホームページに小中一貫コーナーを設け，小中一貫に関する取組について，写真や文章で紹介している。

エ　保健生活チェックシート

児童生徒の実態把握と望ましい生活習慣の意識化を目的として生活チェックアンケートを実施し，把握した課題（毎食後の歯磨き，十分な睡眠，100％の朝食摂取）を基に必要な指導を３校で実施した。内容は，担任による短学活での指導，保健委員会活動を活用した啓発活動，保健だよりを活用した保護者への啓発（シリーズ化して発行）である。

４　成果（進捗状況と今後の課題）

(1)　成　果

○　研究１年次として，組織が整い，年間の見通しをもって，実施することができた。

○　全体研修では，担当指導主事による講話を基に，小中一貫教育の目的を共有することができた。

○　全職員が各プロジェクトに所属することで「９年間を見通して児童生徒を育てていくために」という視点で何をどのように実践していけばよいか考え，実践することができるようになってきた。

○　小中リーダーの育成，児童生徒の手による学校の活性化がなされた。

(2)　課　題

○　施設分離型のため，移動に時間と費用がかかる。互いに直接顔を合わせることが理想だが，できない場合は空間や時間は共にしなくても，ICT を活用したり，目標を共有して切磋琢磨したりするなど，無理をせず，持続可能な実践を続けたい。

○　地域との連携として，今年度準備をしてきた３校合同引き渡し訓練を次年度実施していきたい。